

2018年10月1日

関係各位

名古屋大学生物機能開発利用研究センター長
中園幹生
[公印省略]

生物機能開発利用研究センター
基盤・育成部門高次生体分子機能研究分野助教（テニュアトラック教員）の公募について

この度、名古屋大学生物機能開発利用研究センターでは、下記の要領で助教（テニュアトラック教員）を公募することになりました。つきましては、関係分野の方々にご周知いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 公募人員：助教（テニュアトラック教員）1名

2. 選考方針

当センターでは、多様な生物の生命現象に関わる生物機能を解明し、その研究成果を有用生物に応用することにより、生物系システムの高度利用に貢献することを目的とした研究活動を行っています。

その中で「高次生体分子機能研究分野」では、イネ科作物の重要農業形質に着目し、責任遺伝子を同定すると共にその分子機能の解明に取り組み、得られた知見をゲノム育種に利用することで作物の改良を推進しています。

今回公募する助教（テニュアトラック教員）には、作物の遺伝育種あるいはその関連分野で優れた研究業績を挙げつつあり、当該研究分野のさらなる発展に貢献できる人物を求めています。特にイネ科作物の分子遺伝学的研究を展開でき、かつ圃場経験（栽培、形質評価、交配など）を有する人物が望まれます。

なお、公募する助教（テニュアトラック教員）には、名古屋大学大学院生命農学研究科植物生産科学専攻の協力教員として教育も担当していただきます。

3. 任期：5年。ただし、本学におけるテニュアトラック制度により、審査を経て合格した場合は、テニュアが付与されます。

4. 給与：年俸制（名古屋大学の年俸制適用教員給与規程による）

※諸手当等、その他の待遇については、国立大学法人名古屋大学の規定に準拠します。

5. 応募書類

- (1) 応募する旨明記した書類（応募者の連絡先、電話番号、e-mail アドレス等を含む）
- (2) 履歴書（様式任意）
- (3) 研究業績リスト（原著論文、総説、著書、特許等に分類して、番号をつけてください）
- (4) 論文等の PDF ファイル（主要なもの 5 編程度、著書等の場合はコピー、印刷物でも可）
- (5) 現在までの研究の概要（1,000 字程度：研究業績リストの番号を引用して作成ください）
- (6) 今後の研究についての抱負（1,000 字程度）
- (7) 大学院教育に対する考え方と抱負（500 字程度）

- (8) 特記すべき活動実績（研究費獲得状況、教育・研究活動、学会関連活動、社会貢献、国際協働などで選考の参考となる事項があればお書きください）
(9) 応募者について照会できる方2名の氏名、連絡先、電話番号、e-mail アドレス

- ・上記の書類各1部をA4サイズ用の紙に印刷して提出してください。
- ・「(4) 論文等のPDFファイル」についてはCD、USBメモリ等の電子媒体に保存したものを提出してください。
- ・(4)を除く、(1)～(9)の提出書類を一つにまとめたPDFファイルも同じCD、USBメモリ等の電子媒体に保存して提出してください。
- ・提出された書類は本選考以外の目的には使用いたしません。応募書類は、本選考委員会が責任を持って処分し返却いたしません。

6. 応募期限

2018年11月19日(月) 当日必着

7. 着任予定時期

2019年4月1日以降を予定していますが、ご相談の上決定いたします。

8. 書類送付および問い合わせ先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学生物機能開発利用研究センター
基盤・育成部門高次生体分子機能研究分野テニュアトラック助教選考委員会
委員長 芦苺基行
E-mail : ashi@agr.nagoya-u.ac.jp
Tel: 052-789-5194

書類は「応募書類在中」と朱書きし、書留郵便または宅配便など配達記録の残る方法でお送りください。

お問い合わせは、委員長宛に電子メールでお願いいたします。

応募期限の1週間後までに応募書類を受領した旨の連絡(電子メール)がない場合には委員長までお問い合わせください。

9. その他

- (1) 選考の過程で面接やセミナーをお願いすることがあります。交通費は自己負担とします。
- (2) 名古屋大学テニュアトラック制に関する規程については、Webページをご覧ください。
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kisoku/act/frame/frame110001177.htm>)
- (3) 当センターでは、男女共同参画推進に積極的に取り組んでいます。名古屋大学の取り組みについては、Webページをご覧ください。
(<http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/>)